第 3 章

研究方法

3.1. 研究方法

本研究では、IJFL の視座構文てがかりを使用する談話における、視点置き方と適格文から見た、視点習得はどのようであるかデータの分析を通して質的に探(さぐ)ることを目的とする。筆者は *treatment* せず、現象、状況などをそのまま描写して、従って、本研究 *Deskriptif Qualitatif Analysis* を用いた。

3.2. 調査対象及び使用題材

3.2.1 調査対象

本研究では、2012 年 2 月にインドネシア教育大学で学期 6 の日本語を専攻する学習者 20 人を対象に、談話における視点の習得状況を調査した。調査対象者の人数は 20 名を決めたことが、次の理由である。

a. 本研究はまだ領域を狭い範囲に限定する。

b. 本研究は、個々によって異なっている能力関して調査よりも習得調査寄りである。従って、調査対象者の人数が沢山であることは要らなく、いくつかのサンプルのみで、同じ学習時間の学習者の視点習得はどのようであるか見られることを考えられる。

次は、調査対象者の人数は学期６の日本語を専攻する学習者を選択するのは、学習時間によって、授受表現に関して学習するために、学期６のほうが最も効果的な学習時間を持っているという理由で考えられる。

3.2.2　使用題材

魏(2007)の先行研究で使用されていた 8 コマから 6 コマになる漫画を使用した。全調査対象者に６コマ漫画は作った *clue* と一緒に配った。必ず日本語で談話を展開するよう漫画で指示した。*clue* は筆者によってインドネシア語で作成されたものである。談話展開する際に、IJFL は *clue* の中に日本語の文型に焦点を当てのことを避けるよう、インドネシア語で *clue* を作った理由である。インドネシア語の *clue* は以下である。

a. Takeru memperlihatkan sepeda barunya kepada adiknya.

b. Adiknya ingin meminjam sepeda baru tersebut.

c. Takeru meminjamkan sepeda barunya kepada adiknya.

d. Adiknya menabrak pohon dan jatuh.

e. Takeru marah karena sepeda barunya rusak.

f. Tapi setelah itu, Takeru menolong mengobati luka adiknya.

その６コマ漫画を選択し、次の理由である。

a. ６コマ漫画はシリアライズで、「タケル」と「弟」の登場人物が２名の漫画である。２名の登場人物から見た、IJFL は何処に視点を置いているか、明らかに指摘できると考えられる。

b.　漫画の中に視座構文的手掛かりとして授受表現で出来事を描写することがある。

3.3. データ収集の方法

3.3.1　オンライン検索

この方法は視点に関して、インターネットで先行研究やジャーナル等をデータを検索という方法である。無効データを避けるために、http://ci.nii.ac.jp/en ように信頼(しんらいず)済みサイトのみ検索(けんさく)制限をした。

3.3.2　調査対象として IJFL の作文テスト

ストーリーテリングで漫画を用い、調査対象として IJFL に作文をさせた。調査対象の作文における視点を分析した。

3.3.3　ストーリーテリング

本研究では談話展開する際に、漫画でストーリーテリングの方法を用いた。ストーリーテリングとは、画像.（絵や写真）、ナレーション、音楽等を用いて、現実に起こったことや、空思う上の出来事を描いたものである。ストーリーテリングは大切な要素がプロット、登場人物、話し手の視点である。.

3.4. データ分析方法

具体的には、以下のような手順で分析した。

3.4.1 データ収集

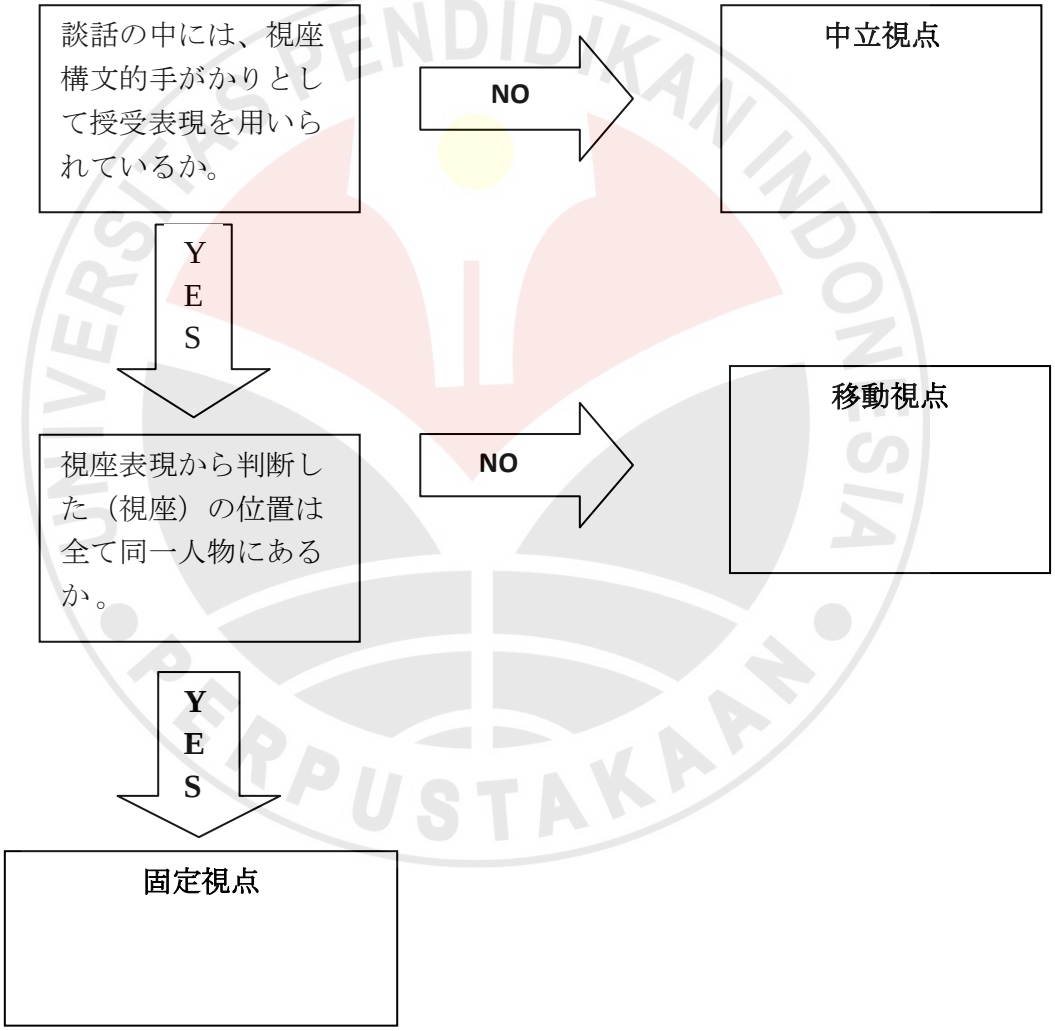
全調査対象者に６コマ漫画は作った参考リストと一緒に配った使用題材を、登場人物が２名の漫画のス トーリーを記述してもらった。この場合、人物設定は調査対象者に任せるため、いくつかの談話に登場人物が２名以外、新しく登場する人物も出た。ストーリーテリング方を用い、一日間以内で *takehome* させる。*Takehome* させるのは、全調査対象者は最大にテストをできるように目的とする。

この際、1) 授受表現を使用すべきの記述はしなく、展開する方法は自由である、2) 漫画は 2 登場人物と展開すべき *clue* しか配らない、3) 登場人物の人物設定は自由である、4) 字が 300 以上である、5)辞典を使用するか自由であり、という指示を与えた。

3.4.2　データ分析

データ得た後、次の手順は以下のように図案である。

a.　談話において、授受表現使用するから見た「視座の置き方」を知るためである。

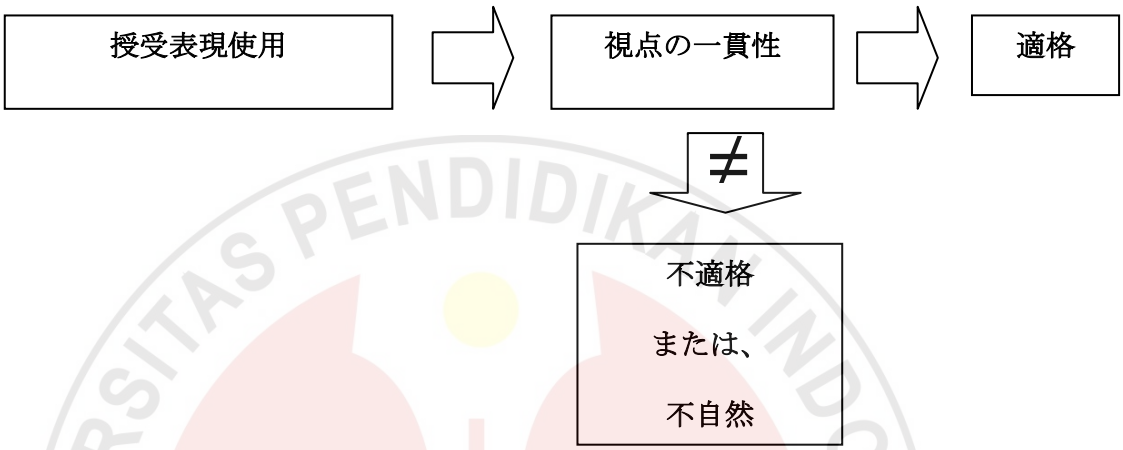


1)　調査対象者の談話における授受表現に焦点を当てた。

2)　調査対象者の談話における視点の置き方タイプを分けた。

3)　結論をまとめた。

b. 「視点の一貫性」における、適格文と自然文から見たどのような **IJFL** の談話の視点習得について知るためである。



1) 調査対象者の談話における授受表現に焦点を当てた。

2) 久野(1978)の「視点の一貫性」原則を用いて視点習得を分析した。

3) 結論をまとめた。

c. 第二言語の日本語で授受表現使用の談話を展開する際に **IJFL** の視点習得はどのような干渉があるかについて知るためである。

1) 以上の a と b を結論をまとめた。

2) 結論をまとめた。